

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500548		
法人名	有限会社 ウェルハート		
事業所名	グループホーム 幸生園		
所在地	福岡県宮若市龍徳1488番地		
自己評価作成日	平成22年12月13日	評価結果確定日	平成23年1月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kai_gosi_p/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成23年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に沿った地域との交流のもとで、「明るく優しく元気よく」をモットーに、チームワークでの介護を目指しています。又、利用者の方々には、「目配り、気配り、心配り」を心がけ、仕事の三要素である「すぐやる、必ずやる、出来るまでやる」努力を惜しみません。何事においても利用者中心に考え、行動し、常に身近な存在で頼れる職員育成に努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設6年目を迎えるグループホーム幸生園は、開設当初から地域に溶け込んだ暮らしに取り組み、地域の理解や協力で、近隣からの入居者が多くなり、納涼会や餅つき大会などにも多くの家族や近隣の方々の参加がある。今年度より、学童保育所や学校への働き掛け、地元小学校の福祉体験学習を受け入れることになった。そして、入居者の馴染みの理髪店に他の入居者も同伴し、待ち時間を散歩やコーヒータイムをしたり、顔見知りの家に寄ったり、近隣からのボランティアの支援で、理念を具現化している。また、地域包括支援センターや地域事業所との連携で、高齢者見守りネットワークの整備に取り組み、地域密着型サービスとして定着しつつある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホーム幸生園 さくら棟**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流の下で、「明るく優しく元気よく」という理念の実践に努めている	理念を目につきやすい玄関等に掲示し、ミーティングや勉強会の折に管理者・職員間で共有し、ケアの実践に活かしている。入居者の話を常に受け入れ、毎日の生活の中で笑いがある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区自治会に加入 納涼祭への協力、参加もあり、園でついた餅を配ったりしている 今年は小学校からの交流会の機会があり、幅が広がっている	学童保育所への働き掛けや入居者家族の協力で、今年度より福祉体験学習として、地元小学校4年生との交流が始まった。自治会に加入し、地域に案内した納涼会や餅つきは小学性や近所の人も参加するなど、共に暮らす地域の一員として認識されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方よりの相談には応じている 小学校の福祉体験学習にも協力し、支援方法を指導している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に地域区長、民生委員、市担当者、家族代表の参加で開催し、困難事例への意見や、職員への意見等頂いている	2カ月毎に開催され、困難事例への対応や外出先や研修会の紹介など活発な意見交換があったり、試食会のアンケート結果を運営に活かしている。次年度より、職員の出席や入居者の参加を工夫し、意見交換できる場にしたいと考えている。会議録は玄関ホールで公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	徘徊ネットワークの活用 地域包括支援センターとの連携で、成年後見制度の利用	高齢者見守りネットワーク、成年後見制度の活用について、地域包括支援センターとの連携で活用に向けて取り組んでいる。日頃より、空き居室の情報交換等気軽に相談できる関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や研修で学び、身体拘束をしないケアの実践に努めている	管理者、職員共に身体拘束禁止の対象になる具体的な行為について周知している。家族の要望と安全確保のため、車椅子使用時に補助ベルトをしている入居者についても、這ったり立ち上がる等の動作を妨げてないように支援している。帰宅願望のある入居者への気配り、後ろフアスナーのパジャマから短期間で布パンツへの移行等、身体拘束をしないケアの実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修で学び、身体拘束をしないケアの実践に努めている学び、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や地域福祉権利擁護事業に関するパンフ等を玄関に整備 勉強会で学び、実際に後見制度を利用している方がいるので活用中	入居後、成年後見制度の活用に至った入居者もあり、制度については職員にも周知を図っている。日常生活自立支援事業や成年後見制度のパンフレットを整備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の説明時にキーパーソンを尋ね、その方を主として、契約等の詳しい説明を実施している 当事業所の方からは、管理者及び主任が同席するようにしている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度開催される運営推進会議において、家族代表の方々にも意見を述べてもらえるようにしている 又、気軽に意見、要望を述べてもらえるように玄関に意見箱を設置している	運営推進会議に2年交代で家族2名の参加をお願いし、要望や意見をサービス改善に取り入れている。家族会はないが、納涼会、餅つきなどへの家族の参加も多く、ホーム来所時等何でも言っていただけの雰囲気づくりに留意している。毎月「たより」を渡し、入居者の日常を報告し、返信がある家族もいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会の際に意見、提案を述べてもらうように努めている	業務については先輩が、職場ストレスは管理者が相談を受ける体制があり、職員の気付きはミーティング等で検討している。入浴日を週2回から4回とし、入浴日の選択肢を増やしたり、尿とりパットの種類について提案があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二度、職員より自己評価をしてもらい、それに対し、アドバイス及び個人の評価を行い、給与や賞与に還元している 又、働きやすい職場環境作りにも努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たって性別、年齢での理由で対象からの排除はない 但し、当園の理念を理解されなかったり、条件面での不都合が生じた際は、不採用の場合もある	職員はハローワーク、職員の紹介で採用している。60歳定年だが70歳までパートで採用している。試用期間を3カ月設け、理念の理解と実践に向けて教育している。各ユニットに職員ルームが設けられている。勤務しながら資格が取得できるよう勤務配置の考慮をしている。夜勤専任者、厨房担当のパートを配置し、昼間3人体制で介助が出来る体制を確保している。	段階に応じて、多様な研修機会を活用するためにも、新任・現任共に職員の研修計画を作成していただきたい。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	園内勉強会を始め、ブロック研修等での人権学習等には、積極的に参加をし、入居者に反映できるように理念に基づいた取り組みをしている	参加した人権研修は報告書を作成し、伝達も行われている。地域グループホームとの交流で、教育と啓蒙についての理解が進んでいる。高齢者虐待防止に関するマニュアル、個人情報に関する規定が整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務状況を把握しながら、研修等に参加するようにしている 園内勉強会も実施している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GHみやわかに参加し、定期的に研修会を開き、情報等を得ている 又、他ホームとの相互訪問も行い、交流を通して向上を図っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接を行い、情報収集をし、本人の希望等を把握している 又、数日の体験入所も実施している		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面接を行い、家族の希望等も把握し、ホーム見学を実施している		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が何を望まれているのかを家族ときちんと話し合い、職員とも会議を設けて、必要な機関への対応も出来るように話し合いをもっている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を第一に考え、個々の生活に合わせた介護をしている		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族でなければ出来ないことは協力をお願いし、利用者を共に支えあえるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の行きつけのお店(床屋、時計屋等)を利用するようになっている 又、訪問(面会)についても特別な事情がない限りは応じている	入居者の馴染みの理髪店に他の入居者も同伴し、待ち時間を散歩やコーヒータイムをしたり、顔見知りの家に寄ったり、帰りに外食するなど、楽しみを継続している。自由参加で趣味として続けている陶芸、生け花、お化粧品等は近隣からのボランティアもある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全利用者が話を合わせられるような環境作りもしている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	園へのイベントの誘いの案内をしたり、亡くなられた利用者に対しては、告別式や初盆の挨拶は欠かしていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の難しい場合は、利用者の望んでいる事を探りながら、検討している	本人の生活歴や職歴、入所前の自宅での生活の実態、日々のケアの中で入居者の行動や表情から思いを把握するように努め、アセスメントシートに記載している。	入居前の入居者の生活実態を把握することから、提供するサービスが広がったり、現在の援助の目標や方向性を見出すことに繋がるので、継続して情報収集することをお勧めします。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、馴染みの方からの情報収集を把握している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時にスタッフとの情報を共有し、業務日誌に目を通し、押印し、把握をしている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	来園時に家族の意向を確認し、本人の日頃の言葉から意向を汲み取る様になっている 職員と話し合い、担当職員に実践できるものはお願いしている	担当職員、主任、管理者、計画作成担当で担当者会議を開催し、一人ひとりの意向に沿った介護計画を作成している。介護計画書に具体的な支援内容が記載され、3カ月ごとにモニタリングを行い、職員間で内容を共有している。介護計画は入居者、家族に説明し、意向確認書を作成し、同意を得ている。	週間予定表に個別のケア事項を記載し、計画に基づくサービスの提供をお願いしたい。モニタリングの際に、職員から意見が多く出されるよう、勉強会を活用されてはどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映	ケアプランに沿った介護をしているのか日々の記録で情報を共有して、実践及び介護計画の見直しに活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の長年のかかりつけHP受診等に車で送迎している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の小学校との交流を実施している 又、必要時にはボランティア利用や消防等の連携にて避難訓練等を行っている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医より毎週訪問診察を受け、健康管理をしている 専門医受診が必要な場合はかかりつけ医の紹介状を持参している	家族の訪問等で使用されている別室で訪問診療を支援したり、体調の変化や夜間の相談にもかかりつけ医の対応がある。かかりつけ医への受診は家族が同伴し、緊急や専門医への受診は職員が受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があれば報告するようにしている 看護職員が休みの場合は電話連絡をし、適切な助言をしている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はお見舞いに行き、本人の状態把握とソーシャルワーカー(あるいは病棟看護師)との情報交換をしている 病状が安定し、問題なければ退院を働きかけている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やターミナルに関する指針や入居者、家族の同意書を整備し、入居時に説明している 重度化により、限界が近づく前にかかりつけ医、家族とも今後の方針について相談している	看取りに関する指針、同意書を整備し、入居時に説明している。開設以来看取りの事例はないが、終末期に入院された入居者を支援している。勉強会では家族の想い、本人の意向確認について学び共有している。	今後もターミナルケアに向けて、ホームとして、出来ること・出来ない事を話し合わせ、実践に取り組まれることをお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルを目に付く場所に置き、熟知してもらうように指導している 又、救命講習を受講し対応の訓練を学び、ミーティング等で常に話し合っている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯、夜勤対での災害等を想定し、入居者と共に避難訓練を年二回実施している 近隣への協力も依頼している	消防署の協力で避難訓練を実施し、訓練後の運営推進会議に消防署に参加いただき、課題等について話し合っている。また、消防署の協力を得て、救急蘇生法やAEDの研修を行っている。ホームの場所は六つが岳の麓で登山口があるため、近隣の住民に見守りをお願いしている。現在スクリンクラー設置の工事中である。地区高齢者見守りネットワークの見直しもあり、地域での見守りも充実しつつある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには留意をしている 介護記録等は持ち出すことをせず、終了した分には鍵のかけた場所に保管をしている 又、家族より求められた時は開示している	個人情報に関する規定を整備し、入居者と生活を共にする者として、親しく、尊厳を守る声かけがなされている。ひとり寝に慣れない居間近くの入居者には、個室の戸を開放して休んでいただく等細やかな配慮がある。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望、思いを尊重しながら対応している		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護者のペースではなく個人のペース、体調に合わせての声掛けを実施している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて、馴染みの美容室とか散髪店にお連れしている 又、月1回ボランティアの協力を得て、お化粧をしている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使ったり、庭園で栽培している畑の野菜を使っての準備等をして頂く 入居者の体力、機能に合わせて手伝ってもらう	日頃は厨房担当職員が家庭的な料理が提供しているが、和食店の調理人による海鮮丼をいただくこともある。昼食がすんだ入居者が自室に戻り、エプロンを着けて職員と共に、生き生きと食器洗いを始めるなど、入居者の力量に応じて支援している。ホームの菜園で採れた野菜や近所の人の差し入れの野菜が食卓に上っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事療法の必要な方については栄養士の指導を受けて実践している 又、その方に合わせた食事の形態にも留意している 月1回体重測定しコントロールしている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的に朝、晩の口腔ケアを実施している 体力、機能に応じて、歯ブラシを替えたりの介助等をしている(ハミングッド使用等)		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態に合ったトイレ誘導に心がけている 日中は布パンツを使用し、就寝時のみ紙パンツを使用している方もいる 2Hおきのトイレ誘導は全ての方に実施	2時間おきの声かけや誘導で、個々の排泄パターンを把握している。トイレで落ち着かない方にはトイレ内で話し合い手になる等、誘導に工夫している。排泄が自立している入居者には、トイレに掛けられたカレンダーに排泄状況を記入してもらう等、チェックの仕方も状態に合わせて行い、トレーニングパンツから布パンツへ、紙パンツからパット使用になった入居者もある。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事にて気をつけるように心がけている 又、排泄チェック表をつけ、排便のない日の間隔を把握し、食事後にはトイレに座ってもらう習慣をつけている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2~3回の入浴の他に、本人希望時にはいつでも入浴して頂けるようにしている	入浴日を選択できるようにしているため、入浴の順番をじゃんけんで決めている入居者もいる。ユニット毎に個室と大浴場があり、季節により使い分けている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠したい時にしてもらっている 個々に応じて、ベッド使用、畳での布団使用等をして頂き、時にはベッドの位置を変える等、対応している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬の管理をし、誰がどの様な薬を飲んでいるのか明確にしている 服薬確認のチェックはもちろんの事、症状変化、与薬変更の時は業務日誌にて申し送っている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティアと協働し、作品を作り上げたり、スタッフと共に歌を歌ったり等、支援し、気晴らしとなっている 園内、園外のレクを活発に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時には一緒に買い物等の外出をしたり、担当スタッフと外食を試みたり、バス・バイク等に出かけたりしている	季節毎の外出計画のほかに、個別の買い物を支援している。お天気の良い日には、近くの地藏様やお寺の周辺を散歩している。冬季には、バリアフリーのスーパーやクリスマス飾りのある住宅街の見学ドライブに出かけている。また、外泊希望者への送迎を支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談の上で、ある程度の金額を持たせている方もいる		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に使ってもらえるようにしている 職員が番号を押し、話して頂く場合が多い 手紙を書いて、それを職員が投函している方もいる		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、手作りの作品を飾り、家庭の雰囲気を出すようにしている	各ユニット玄関前のスロープには、地域の小学生たちが育て持参してくれた花が置かれている。玄関には入居者が生けたお花や陶芸作品が飾られ、広々と明るいリビングの窓からは外の様子がよくわかり、昼食後も思い思いに寛ぐ入居者の姿が見られる。廊下にはベンチが置かれ、気のあった入居者同志のおしゃべりの場となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファ、TVも置いて、いつでも自由に使えるように支援している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険な物品以外は、使い慣れた物を部屋に置いてもらっている 個々に沿った部屋にして使ってもらっている	入居者の希望や身体状況に合わせて、ベッドや畳敷きの居室作りがなされ、ドアには入居者と担当職員の表札が掛けられている。馴染みの家具や家族の写真が飾られ、ポットやテレビが置かれ一人でいてもほっとできる居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各利用者に常に、目配り・気配り・心配りに心がけている ご自分で出来ることをして頂き、出来ないことには手伝ったり、助言をしている		